

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「高めよう自分力、開こう未来への扉」をスローガンに、授業や行事、部活動、地域連携など学校におけるあらゆる教育活動をおし、一人ひとりの能力を最大限に高め、

- 1、「厳しい社会を生き抜いていく力」
- 2、「社会の中で共に生きていく力」
- 3、「めざす進路を実現する力」

を培い、自己実現に向けて意欲的に取り組む、高い「志」を持つ骨太の生徒を育てる。

2 中期的目標

- 1、自主・自律を根幹とした生徒指導と授業・進路指導・自学力を基軸にした学習指導の充実
 - (1) 生徒指導と教育相談体制の充実
 - ①生活指導：家庭との連携を図り、学習指導や進路指導に直結した生活指導をめざす。
年間遅刻総数は過去3年間で約25パーセント減を達成した。一層の遅刻数減少をめざす。
私立高校との通学路が重なるため、よりきめ細かな通学指導を徹底する。また、自転車による重傷を負う事故が2年連続発生していることから、自転車通学での安全指導を徹底する。
 - ②教育相談：教育相談室の輪番制を継続するとともに、相談室機能の充実を図る。また、心に悩みをもつ生徒への校内支援システムの更なる効果的な活用を図る。
 - ③生徒会活動：生徒自らの力で運営できる執行部体制を構築する。また、部活動の参加率を高め、自分力を高める。
 - (2) 一人ひとりの力を伸ばす学習指導
 - ①授業アンケート(2回)を軸にして、よい授業を組織的に追求する。
 - ②平成25年度からの新教育課程実施：進路実現を視野に入れながら、それぞれの教科を中心に新教育課程に即した教科研究や教材開発を充実させる。
 - ③研究授業、授業評価：経験の少ない教員の授業力向上のため、研究授業の充実を図る。
 - ④自主的な学習の奨励：自主学習を促すため「同窓会館」の早朝、放課後の開放を継続するとともに昼休みも開放する。また、生徒が自習できる環境をより整えていくとともに学習環境も整備する。
 - ⑤家庭での学習習慣の定着：毎日1時間以上家庭学習をおこなっていると回答した比率が平成25年度で47%であることから、「学力生活実態調査」を担当による面談で活用し、学習意欲の向上と家庭での学習習慣の定着を図る。
 - ⑥図書館活動の充実：生徒の読書活動充実のため学校図書館の利用を促進するとともに地域の図書館とも連携する。
 - (3) ガイダンス機能の充実と進路実現に意欲的に取り組む生徒の育成
 - ①進路ガイダンスの充実：昼休みの進路相談体制を継続する。生徒が自分の意思と責任で進路選択ができるよう適切な情報提供を行うなど、ガイダンス機能の充実を図る。また、現在学年別に配付している「進路の手引き」に加え、生徒が記入および記録の保存ができる「進路ファイル」や3年間を見据えた進路指導年次プランを活用する。「学力生活実態調査」を活用し生徒へのガイダンスを充実させる。
 - ②希望する進路の実現：生徒の希望した進路が実現する進路指導を行う。そのために生徒の「進路指導に対する満足度」についての調査を行い75%以上の数値獲得をめざす。また、進路実績の具体的数値目標として、生徒の志望数の多い関西8私大(関関同立産近甲龍)合格数250、国公立大合格数2ケタをめざす。その他、就職、公務員試験及び看護医療系進学に関しては90%以上の合格率をめざす。
 - ③土曜日の活用：校外模試実施を継続。受験を奨励する。
- 2、学校運営体制の充実と開かれた学校づくり
 - (1) 学校運営
 - ①学校運営に関する教員からの提言が増えつつある。学校改善に向けた提言を検討し、提言の実現を図る。
 - ②OJTの場と機会を積極的に作り人材育成を図る。
 - (2) 開かれた学校づくり
 - ①改革のモニタリング機能として、学校協議会、PTAを積極的に活用する。
 - ②広報活動の充実：平成25年度学校評価報告と自己診断結果、26年度学校運営計画を4月にwebページで発信する。学校での日常生活の取組みも、webページを通じて随時発信する。
 - ③保護者に対するメーリングシステム活用を継続し、保護者への情報提供を充実させる。
 - (3) 様々な場と機会を利用して積極的に情報発信を行う。
 - ①本校在籍生徒・出身生徒の中学校を訪問し、生徒情報収集や情報発信をおこなうなど連携を図る。
 - ②本校で行う学校説明会の他、校外での説明会にも多く参加し、本校の良さを発信をする。
 - ③学習塾等の教育産業関係者に対しても、本校の取組状況等の情報発信を積極的におこなう。
 - ④HPの整備、学校説明資料の充実。
 - (4) 地域連携

地域連携の更なる充実：朝のあいさつ運動、地域清掃活動等に延べ700名以上の生徒や保護者の参加をめざす。生徒の読書活動促進のため地域の図書館と連携する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【1】 学校教育自己診断アンケートの結果について</p> <p>昨年の学校協議会で頂いたご意見、肯定度だけでなく全くあてはまらない度も、分析に用いました。</p> <p>○学校生活について：生徒・保護者ともに学校生活全般についての肯定感</p>	<p>【2】 第三者による学校評価</p> <p>学校協議会(委員構成：大学准教授(座長)、地元中学校長、地元自治会会長、学習塾校長、本校PTA会長、本校同窓会会長)</p>

は高い。

生徒回答では、「学校行事は楽しいか」肯定度 87%（昨年度 88%）（以下同様）、「部活動への取組み」74%（72%）、「生徒会活動・HR 活動は活発である」69%（63%）、「学校へ行くのが楽しい」81%（79%）、保護者回答では、「学校行事の取組み」89%（87%）、「部活動への取組み」74%（72%）、「学校に行くのを楽しみにしている」83%（82%）と生徒・保護者ともに学校生活全般については、今年度も高い肯定度の回答をいただいています。

多くの生徒が学校生活・行事に積極的に参加し「学校の規則をよく守っている」92%（91%）と回答していることから、生徒は与えられた環境・ルールの中で、学校生活を有意義に楽しく過ごしている事がよくわかります。また、「家庭で学校のことについて話をする。」が 70%（69%）と、保護者と生徒のコミュニケーションが比較的よく取れていると考えられます。

外部（塾、中学等）の評価でも「登美丘の生徒や卒業生は、学校に満足している。」いわゆる、学校満足度数が高いという評価をいただいています。今後もこれを大切に継続していきたいと考えています。

○授業や学習への取組み：授業への取組態度は良いを維持・さらに向上し、かつ、家庭での学習時間も、やや向上したが、まだ満足できるレベルではない。

生徒回答では、「授業への取組み」は 82%（79%）で、保護者回答では「一日 1 時間以上家庭で学習している」に対し、「よくあてはまる」が 23%（21%）、肯定度でも 52%（47%）、全くあてはまらない度は 14%でした。「塾・予備校で学習している。」には、34%（30%）（一年 22%（16%）・二年 26%（28%）・三年 55%（48%））が塾・予備校を利用していると回答しています。

全体としてみると学習面において特に学力を定着させるために重要な家庭学習がやや上昇したと読み取れます。これは、各学年で取り組んでいる週末課題や、昨年度から取り入れた、学力生活実態調査の成果が徐々に表れてきていると考えます。ただ、一日 1 時間以上の家庭学習が 50%を初めて超える結果とはなったが、あてはまらない度を減らしていくことも含め、今後も指導を続けるとともに、自習室の利用の促進や、保護者とも協力しながら家庭学習の習慣をつけさせたいと考えています。

○学校に期待されている事：授業力のアップ、わかる授業に向けて。かつ、保護者の約 9 割は登美丘に進学させてよかったと回答するが、進路指導については更なる充実を望んでいる。

今年度の教育目標の一つとして、より良い授業を行う。いろいろな教科において、発表の場を持ち自己の考えをまとめ発表するというものを掲げています。

生徒回答では、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」が 40%から、今年 55%と大きくアップしたのも、成果の表れであろう。

また、「授業はわかりやすい」64%（59%）、「先生は教え方に工夫している」55%（46%）、「先生に質問しやすい」63%（59%）と、昨年より改善されています。また、「よくあてはまる」の回答は、順に 8%（7%）、10%（10%）、17%（14%）で、「全くあてはまらない」の回答 7%、7%、7%を上回っており、今年度の目標である教員の授業力アップの取組みの成果が表れてきていると思われます。

保護者回答では、「登美丘に進学させてよかった」88%（88%）、「学習指導に満足している」74%（74%）、「進路指導に満足している」74%（72%）、と回答していますが、「学習指導・進路指導に満足している」の「よくあてはまる」の回答が、14%・14%と全アンケート質問項目中ではかなり低い数字となっており、記述意見の中にも進路・学習に関するものも多く、進路指導（学習指導にも通じると考えます）への期待は大きいものであると判断しなければなりません。

以上の結果より、高校生活、学校行事、生活指導の充実はもとより、学習面においても、授業評価アンケート等により現状をチェックし、授業のさらなる充実・工夫に努めていかなければならないと考えています。進路指導についても、全体への進路指導に加えて、きめ細かい個々の進路相談にも力を入れ、生徒個人がしっかりと実力をのばし、自己実現につながるように指導していかなければならないと考えています。

○情報発信について：活用され、一定の評価をいただいている。

保護者回答では、「ホームページを見たことがある」71%（67%）、「連絡プリントは必ず見る」68%（72%）、「365 日いつでもネットは役立っている。」77%（79%）と情報ツールについては、ほぼ定着し活用され、一定の評価をいただいていると考えられます。今後は、さらに、保護者だけでなく地域の方々にも情報を発信し、地域に根差した学校づくりに努めたいと考えています。また、情報の共有と発信のために、在校生の出身中学校を訪問し、かつ、学区撤廃（入試制度変更）になり南海高野線沿線（大阪狭山・河内長野・富田林）の中学校からも生徒を迎えている為、その方面の中学校にも訪問しました。今後も中学校との連携を深めながら教育効果があがるように継続していきたいと考えています。

○生徒アンケート項目での改善項目と考えているもの

「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の全くあてはまらない度が 15%（肯定度 46%）と他と比べると高くなっている。教育相談室などのアピールが足りないものと思われる。「校長先生の話は興味深くわかりや

第 1 回 平成 26 年 6 月 20 日（金）13:00～16:00

協議内容

- ① 本年度の学校経営計画および学校評価について
- ② 本校の現状（進路状況）と取組状況について
- ③ 今後に向けた課題について — 進路指導充実のためにできること

第 2 回 平成 26 年 9 月 13 日（土）13:00～15:00

協議内容

- ① 平成 26 年度学校経営進捗状況について
- ② 文化祭視察
- ③ 今後に向けた課題について — 第一回授業アンケートの振り返り

第 3 回 平成 27 年 2 月 2 日（月）15:00～17:00

協議内容

- ① 本年度の学校経営取組状況について
- ② 平成 26 年度進路状況について
- ③ 学校教育自己診断について
- ④ 本校教育活動に関する意見書について
- ⑤ 今後の方向性について — 学校経営計画

等の報告及び協議をおこなった。

3 回の協議会のまとめとして下記の提言をいただきました。

【学校協議会からの提言】

1. 学習指導について

○生徒による自己診断結果によれば、授業に関する全項目（4, 5, 6, 7, 8, 20）で改善が見られた。今年度の重点目標のひとつである「良い授業の追求」の成果が確認できる。特に、発表する機会が増えた（5）は 40→55%と顕著であった。英語科の暗唱大会（1 年）、プレゼン大会（2 年）、情報のプレゼン授業をはじめ、普段の授業の中で発表する機会を意識的に取り入れたことが奏功したと思われる。

○授業以外でも、週末課題、放課後・夏休み・冬休み講習など教員による自主的な支援が継続的に行われておりその努力は敬意に値する。また、最近の進学実績にも結果が表れている。今後、特に 1, 2 年次において生徒の学習状況に合わせた一層きめ細かな学習指導ができれば、苦手科目をなくし学習習慣を身につけることにも効果が期待できると考える。

2. 進路指導について

○保護者の満足度は昨年並みに高い（74%）が、「よくあてはまる」の回答は比較的低い（14%）。記述意見からも、さらなる改善の要望がある。生徒と保護者の立場から今どんな情報や助言が必要とされているのかをよく吟味しベストのメッセージが伝えられるように一層努めてほしい。

○来年度の学校経営計画案に進学に関する数値目標が掲げられている。授業、講習、自学力（自習室の活用）の基盤があるので、共通の目標を掲げて学校全体で進学に向けたベクトルを作るのは有意義で期待したい。

3. 生徒指導について

○生徒の部活・行事をはじめ学校は楽しいという肯定度は引き続き高い。また遅刻者（12 月末現在）も減り規律もよく守られている。

○勉強と部活・行事の両方とも本気で取り組む学校をめざしており、バランスのとれた校風が登美丘高校の特色のひとつである。ただ、保護者の記述意見にもあるように、部活をしながら勉強時間もしっかり確保できるようにしてやりたい。下校時間の厳守、活動内容・時間のやりくりなど保護者の理解が得られるよう努めていただきたい。できることから一つずつ変えていくことが「両立」を実現するポイントだと考えている。

4. 開かれた学校作り

○早朝あいさつ運動、地域清掃、地区文化祭などへの参加を通して、地域社会の一員としてしっかり絆を作っていることは立派である。座学では学ぶことのできない、社会とつながる力、生きる力を身に付ける機会になっており登美丘高校の大きな財産である。地域から愛され信頼される学校をめざし継続して頑張りたい。

○91 年の間に培われた伝統の良いところはしっかり守り、時代に合わせて変えるべきは変えていくことが大切だ。学校、PTA、同窓会をはじめチーム登美丘で良い学校作りに邁進してほしいと願っている。学校協議会もめざす学校の実現のために今後ともベストを尽くして支援していきたい。

【3】 今後に向けて

本校といたしましては、これらの結果を踏まえ、教職員一同ベクトルを共有しながら、めざす登美丘高校生の育成に努めていきたいと考えております。今後ともより一層のご理解とご協力をお願いいたします。

すい」24% (63%) 全くあてはまらない度は38%であった。前任の中野校長のいいところも参考にしようと思っている。

○教職員アンケートの結果

「生徒の進路実現に向けて講習等を積極的に実施し、学習意欲や学力の向上が図られている。」肯定度96%(昨年88%)(以下同様)、「学習到達度の低い生徒に対しての適切な学習指導」(補習等の取組みです。)82%(86%)、「教科や学年等により家庭学習を充実させる工夫。」82%(78%)、また、進路指導(大学・短大・専門学校への進学指導、企業就職への情報収集と進路相談、面接指導、保護者懇談、等)においても、「計画的な進路指導。」82%(88%)、「生徒の進路希望に応じた情報収集や活用。」86%(86%)と、どの項目でも数値を高水準にすることができた。その多忙な実務に追われながらも奮闘している姿がうかがえます。

また、生徒指導においても、「服装、頭髪、挨拶等の基本的生活習慣に係る指導。」94%(82%)、「遅刻や私語がない等の授業規律を身につけさせる。」86%(76%)、と昨年より改善させています。「学校行事や校務分掌等において、Plan(計画)、Do(実施)、Check(点検)、Action(改善)が実施されている。」73%(61%)とアップしています。進路指導と生徒指導は生徒を育てるための両輪であるので、さらに教職員が一致して取り組んでいきたい。また、PDCAサイクルのCAが次のステップアップにつながると考え、忙しいながらも総括会議等の実施を促していきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒指導を根幹に据えた学習指導と進路指導の充実	生徒指導と教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○遅刻対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 輪番による校門遅刻指導、遅刻届(入室許可証)やおはよう登校の徹底、「8時20分登校」の呼び掛け等を通し遅刻数の減少を図る。 ○通学路指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ きめ細やかな通学指導に努めるとともに、自転車事故を皆無にするための安全指導を徹底し、事故対応策を講じる。5月実施の全校生徒対象の交通安全講習会の更なる充実と自転車通学生徒対象の講習会の充実を図る。 ○教育相談体制 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成26年度入学予定者の中学校に対して、入学前の聴き取り調査を実施することにより、教育相談の早期対応に資する。 ・ 毎日、輪番で相談対応を継続する。校内支援システムにより、早期のきづきに努める。スクールカウンセラー等とも連携を図り、相談体制や校内研修の充実を図る。教育相談研修(5月中旬実施)の充実を図る。 ○生徒会活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 執行部の自主的な活動を促す。昨年度からの取組みを検証し更なる改善に努める。 ・ 体育祭、文化祭、歌合戦の自主的な企画・運営をさらに推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間総遅刻数 3年間で約25%減少させたが、さらに5%減をめざす。 ・ 自転車による重傷を負う事故(一昨年度2件、昨年度1件)をなくす。 ・ 自転車安全指導・交通安全講習実施 ・ 中学校聴き取り調査の必要のある全中学校への訪問聴き取り ・ 早期のきづきと早期対応 ・ 学校教育自己診断で「生徒会活動・ホームルーム活動は活発である」の肯定度を75%(昨年63%)とする。 ・ 運営マニュアルの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○遅刻対策 12月末時点、1413名→1110名(21%減) 8:30の指導遅刻については1920→2051○ ○通学指導 5月、自転車安全指導・交通安全講習の実施(日本自動車連盟大阪支部) 自転車による入院に至る事故は無だが、加害者となり病院に搬送する事故有 ○ ○教育相談体制 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校への聞き取り訪問 相手校の希望により電話FAX等で対応する ○ ・ 教育相談室、学年団、SCが連携を取り早期対応に努めた ○ ・ 自己診断の「生徒会活動・ホームルーム活動」の肯定度は63%→69% ○ ・ 運営マニュアルが整備されて整然と運営されている。生徒による自主運営はさらに改善の余地がある ○

府立登美丘高等学校

	<p>一人ひとりの力を伸ばす学習指導</p>	<p>生徒の進路希望実現のために以下の取り組みを行う。 ○よい授業の追求 授業アンケート（2回）を軸にして、よい授業を組織的に追求する。 5月 個人ごと「よい授業」テーマ設定 7月 第1回授業アンケート実施 8月 個人ごとフィードバック 9月 個人・教科から振り返りシート提出 教科の改善テーマ設定 10月 研究授業 12月 第2回授業アンケート実施 1月 個人・教科フィードバック 2月 個人・教科から振り返りシート提出 3月 成果発表（英数国） ○新教育課程実施に向けた取り組み ・平成25年度から導入した新教育課程に即した教科研究や教材開発をさらに進める。 ○研究授業 ・授業力向上や教員の相互研鑽をめざし、公開研究授業を行う。10月からの1ヶ月間を目途に全教科での実施を継続する。 ○自習室の開放 ・昨年度に引き続き、早朝、放課後の同窓会館の開放に加え昼休みも開放する。 ○図書館活動の充実 ・学級読書会などの図書館活動の充実をはかり、学校図書館の利用を促進する。 ○家庭学習習慣の定着 ・「学力生活実態調査」を面談等で活用し、学習時間の増加のための意識づけを行う。 ○講習・補習の実施 ・各教科による講習、補習の更なる充実を図る。 ○校外模試分析会の実施 ・教科を超えて学年全体の課題抽出</p>	<p>基本的に、前年度比進学実績を総合的な指標とする。 ・自己診断「授業はわかりやすい」評価肯定度59%から約10%増の70% ・新教育課程に即した教材開発 ・研究授業の講座数を昨年の21講座より増加させる。 ・自習室利用人数の増加（毎日10人以上の利用を目標とする） ・図書貸し出し数（年間720冊：H25年度約700冊） ・「1日1時間以上家庭で学習している」生徒の割合を60%以上（昨年47%）にする。 ・実施回数、参加生徒数の増、講習継続参加者数 ・授業改善テーマへ反映</p>	<p>○良い授業の追求 ・自己診断「授業はわかりやすい」の肯定度は59%→64% ○ ・授業アンケートを軸に組織的に取り組んだ。（現在第2回アンケート集計中）教科としての改善テーマの設定と取組みに改善の余地がある ○ ○教材開発 電子黒板を導入したが十分に活用されていない。活用モデルを検討する必要がある △ ○研究授業 新採2名（教育センター公開研究授業）を含め11名が10月に研究授業を実施 △ ○自習室の活用 個人ブースの設置、レイアウト変更、エアコン取り換えなどが奏功し利用者が大幅に増加 早朝・昼休憩・放課後解放 ◎ ○図書貸し出し数12月末までで903冊 ○家庭学習習慣の定着 「1日1時間以上家庭学習している」は47%→52% ○ ○講習・補習の実施状況（ ）内登録延数 ・1年生夏休み2講座（70名）→4講座（600名） ・2年生授業期間3講座（25名）→4講座（70名） 夏休み8講座（235名）→5講座（347名） ・3年生授業期間早朝5講座（86名）→6講座（271名） 放課後9講座（110名）→10講座（402名） 夏休み17講座（381名）→20講座（621名） ◎ （昨年対比など） ○外部模試分析会の実施 課題抽出、授業へのフィードバックなど十分できていると言えない △</p>
	<p>ガイダンス機能の充実と進路実現に意欲的に取り組む生徒の育成</p>	<p>分掌と学年団の連携強化を図る ○進路ガイダンスの充実 ・進路相談体制を充実し、適切な情報提供に努める。1年生向け「進路講演会」を学外において実施する。また、2年生分野別ガイダンスや3年生保護者向けガイダンスの充実を図る。それぞれ保護者への情報提供に努め、連携を図る。 ○入学時の希望した進路が実現する進路指導を行う。そのために、生徒が記入および記録の保存ができる「進路ファイル」や3年間を見据えた「進路指導年次プラン」を活用する。 ○土曜日の活用 ・校外模試の実施回数及び参加者を増やす。 ○希望進路の実現 進路指導の結果として希望の進路を実現する。そのために、進路講習のより一層の充実、自習室・資料閲覧室・面接指導室の確保充実を図る。</p>	<p>基本的には、昨年度比進学実績を総合的な指標とする。 ・面接指導回数、相談回数、来室者数の増加をめざす。（参考：25年度来室者数約750） ・保護者向け説明会参加者数（昨年度1年80名2年70名）をそれぞれ100名以上に ・進路指導年次プランの改良と活用 ・参加者数（昨年度参加者810名）の増加 ・生徒の「進路指導に対する満足度」を75%以上とする。 ・中期目標の数値目標に近づける。</p>	<p>○進路ガイダンス ・面接指導回数、相談回数、来室者数など（昨年対比など） （来室者数約H25:約750 → H26:約1000） ・保護者向け説明会参加者数（1年、2年、昨年対比など） （1年70→91：2年54→49：3年151→95） ・進路指導年次プランの改良 「進路の手引き」の見直し→生徒と保護者のバイブルとなるよう充実を図る △ ・外部模試受験者（昨年対比など）645→864 （1年25→97：2年153→202：3年467→565） ・「進路指導に対する満足度」は72%→74% ○</p>
<p>学校運営体制の充実と開かれた学校づくり</p>	<p>運営体制の充実</p>	<p>○学校改善に向けた斬新な発想を検討し提案する ○HP管理者チームを広報活動推進委に組織化する</p>	<p>・提言数の増加（昨年提言総数25件） ・情報発信の一元的な企画・管理実績とOJT機能</p>	<p>・提言数の増加25件→14件 △ （昨年対比など） ・HPなどの更新はこまめに実施できたが、情報発信の一元化、OJTは改善の余地あり △</p>
	<p>積極的な情報発信と更なる地域との連携</p>	<p>○改革のモニタリング機能として、学校協議会、PTAを活用する。 ・学校協議会テーマ（議題）の明確化 ・PTAとの座談会の企画・実施 教育自己診断に基づく議題の抽出と改善策 ○様々な場と機会を利用して、積極的な情報発信と地域連携を推進する。 ・学校説明会、HP、中学校・塾への訪問を通じて積極的に情報発信を行う。 ・保護者に対するメールシステム活用を活用した保護者への連絡。 ・朝のあいさつ運動、地域清掃活動等を通じ地域との連携を図る。堺市立東図書館との交流を行い、生徒の読書環境をより充実させる。</p>	<p>・職会へのフィードバック、改善実績 ・職会へのフィードバック、改善実績 ・昨年実績比</p>	<p>○学校協議会、PTAが改革のモニタリング機能として役割を果たした一授業の在り方、勉強と部活の両立、PTA座談会での課題・改善案の議論など ○ ○情報発信と地域連携 昨年度→本年度 ・学校説明会（7月マイドーム241名→315名、8月旧第8ブロック490名→536名、11月校内説明会955名→957名）、中学校、塾を通じての情報発信（昨年対比など）◎ ・メールシステムの高満足度は高い ○ ・早朝あいさつ運動、地域清掃、文化祭などへの出展、図書館交流など地域から愛され、信頼される学校作りに大いに貢献した。 ◎</p>